

ふたりユースケ

ユースケ 勇気

盛岡市山王小学校

五年

平野 修至

神童の「生まれかわり」：ぼくがもしそう
言われたらきつと「うれしい」と思うだろう。
小川ユースケと同じように「しばらくは「神
童」に近づこうと努力するのかもしれない。
しかし、「いつでも」だれからも「おれこうさ
火」として見られなくてはならないのかと想
像してみると、苦しくなる。一時々ならばくも

良く見られたくて無理することはある。実は
この読書感想文がそれ。クラスで書いてくる
人を決める時、本当はちよつとイヤだ、たけ
れど、まわりの友だちの視線を感じて手を挙
げてしまった。た。ずいぶん後かいたが、この
本との出会いに感しやすることになった。
もう一つゾツとするのは、だれかと比べり
れ続けることだ。自分かしたことを「〇〇君
ならも」つこうするのになどといちいち比
べられたら、やる気なくなる。それももし

先生に言われたりしたら学校に行きたくなくなるとは思う。

さらに無理と思っただのは、きょう味の悪いことをやらされることだ。好きなことがすべてできなくなると、そのかわりにやりたくないことばかりやらなくちゃいけないとしたら全く楽しくない。

こう考えたら、やっぱり神童の「生まれかあり」はまじっぴらごめんだ。だから、小川ユースケは大川ユースケに近づくために、がい

分かんばつたと思う。

そんなぼくよりも強いユースケでもいつか来てきてつらくなる時がきた。そしてついに大川ユースケになるのをやめる決心をした。しかし、多くの人をまきこんできたためやめるにも「勇気」が必要だ。それを、同級生の天野タイチにうちあけると、こんな言葉が返ってきた。

「おれ、どっちなか、ていうと、ユースケさんになろうとしているおめえより、はじめの

この小川ユースケのほうが好きだな。
読んでいた頃は、このセリフにぐっときた。
かざらない本当の自分の方が好きだな。くて最
高にうれしい言葉だ。タイチとは、友だちな
のがよくわからない関係だ。たが、本当の自
分を出しあっていくうちに親友とよべる関係
になっ、てい、た。た、た一人でも自分のこと
を理解してくれる人がいるだけで、「勇気」が
出るものなのかと思議に思、た。なんで「
勇気」が出るのか考えてみたら、失敗しても
受けとめてくれる人がいる、バが帰る場所が
あると安心して、「勇気」が出せるんじやない
かなと思、た。
そう思、たら、ぼくは、て今よりも、「
勇気」を持、て挑戦していけるような気がし
てきた。そして、だれかの心が帰る場所にな
れるように人間力もみかいて心の広い人間に
なりたい。